



保険者の役割

令和4年度 地域づくり加速化事業（全国研修）

CONTENTS



目次

- 1 保険者の役割の概要・意義
- 2 実施に向けて持つべき視点
- 3 目指すべき効果・成果
- 4 具体的に行うこと
- 5 振り返り・まとめ

保険者として事業を推進するために必要なこと

■ 住民のありたい姿と地域の現状を理解しているか

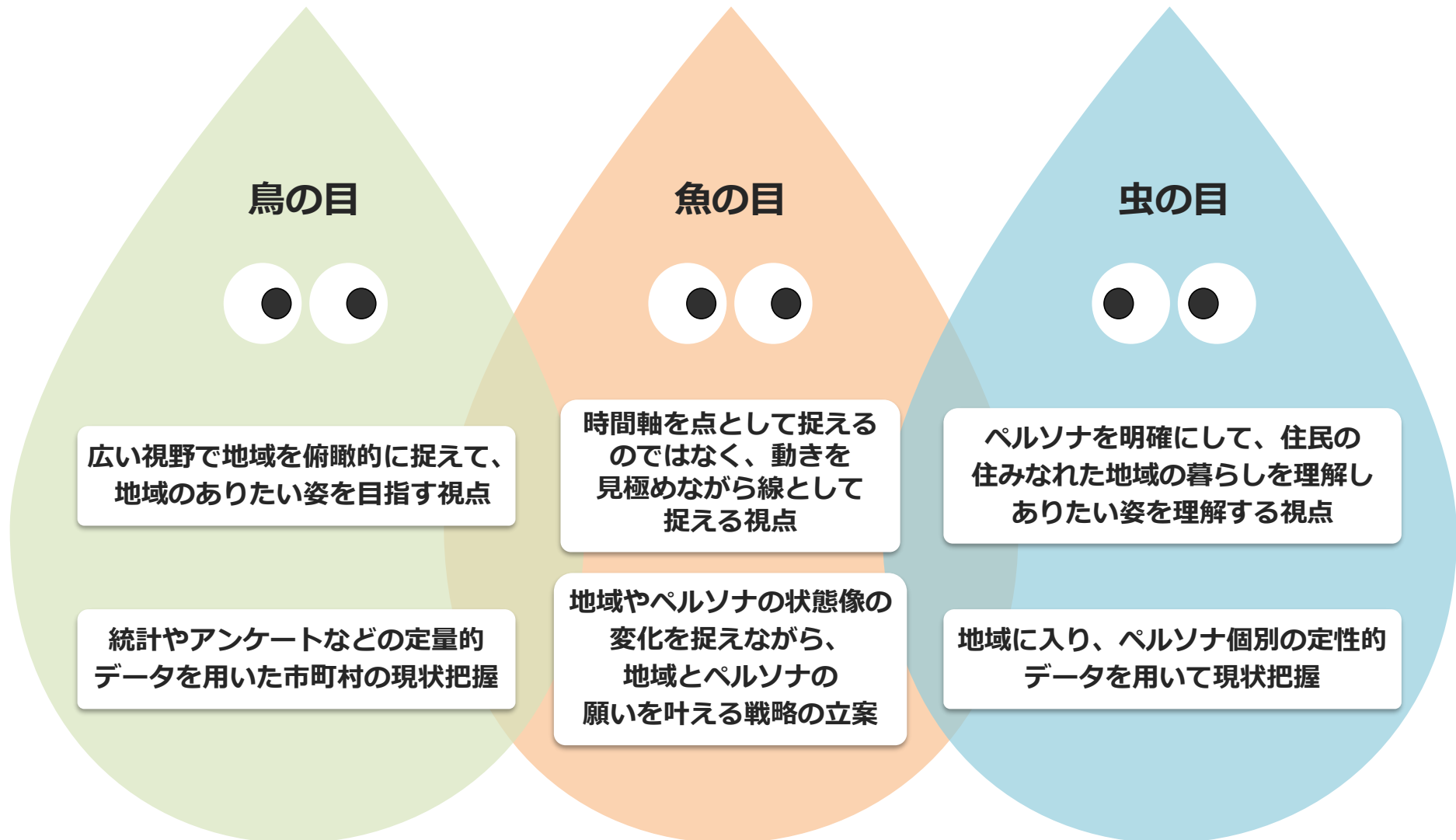
■ 担当者が事業の必要性と効果を理解しているか

■ 担当者が上司や同僚、関係部署へ事業の協力を
得るための働きかけができているか

■ 地域の文化を理解しているか

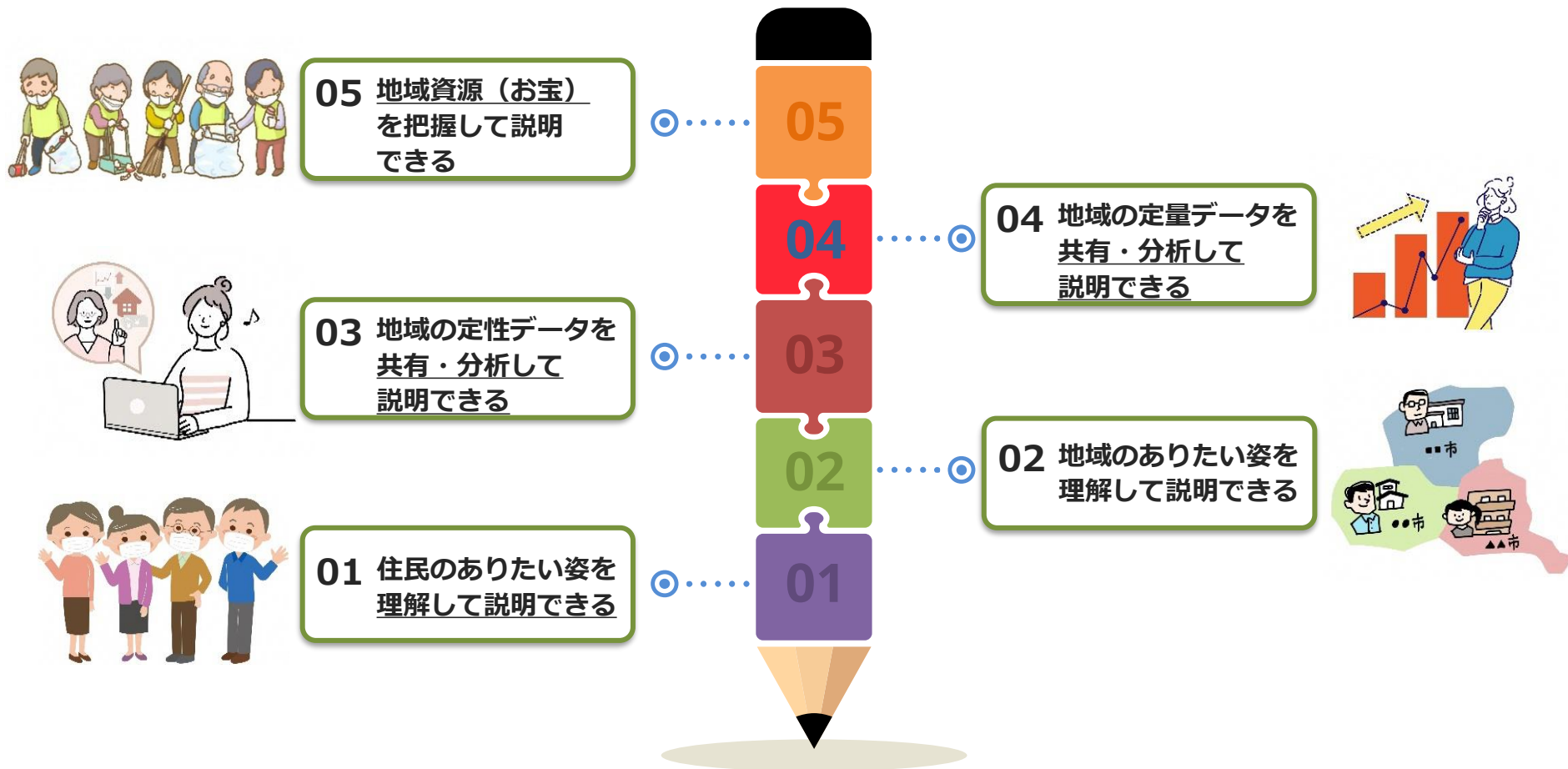
■ 地域への事業展開の戦略を立てているか

変容する地域で自分らしく暮らし続けるための視点

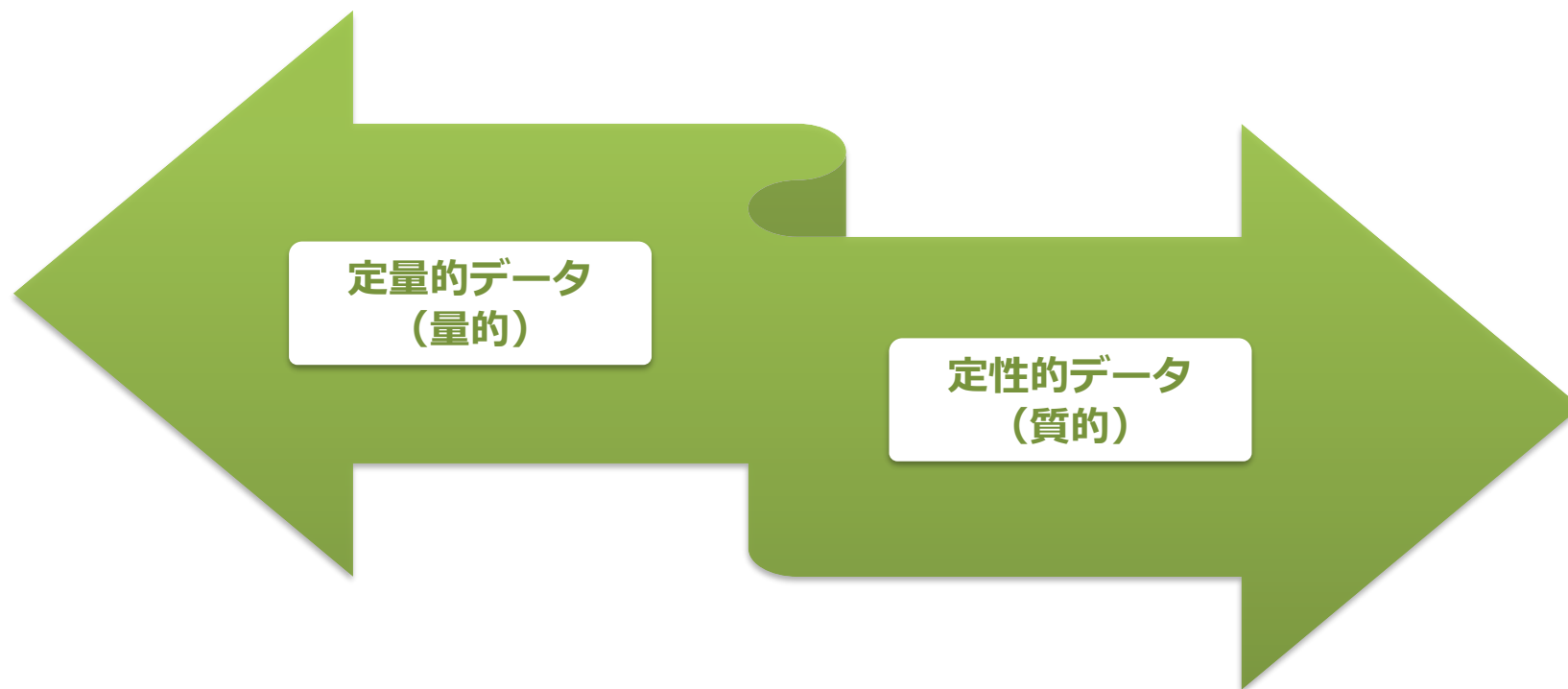


共創イノベーションを生み出すために必要なもの

見える化が大切（活動記録・報告書・計画書・工程表・パンフレットなど）



共創イノベーションの為のデータ



市町村ごとのリソースの違いに合わせた地域のサービスづくり必要なこと

■ 活動して出来ることを大切にする

分かることと出来ることの違いを理解する

■ つながり・共有して・つなげることができる

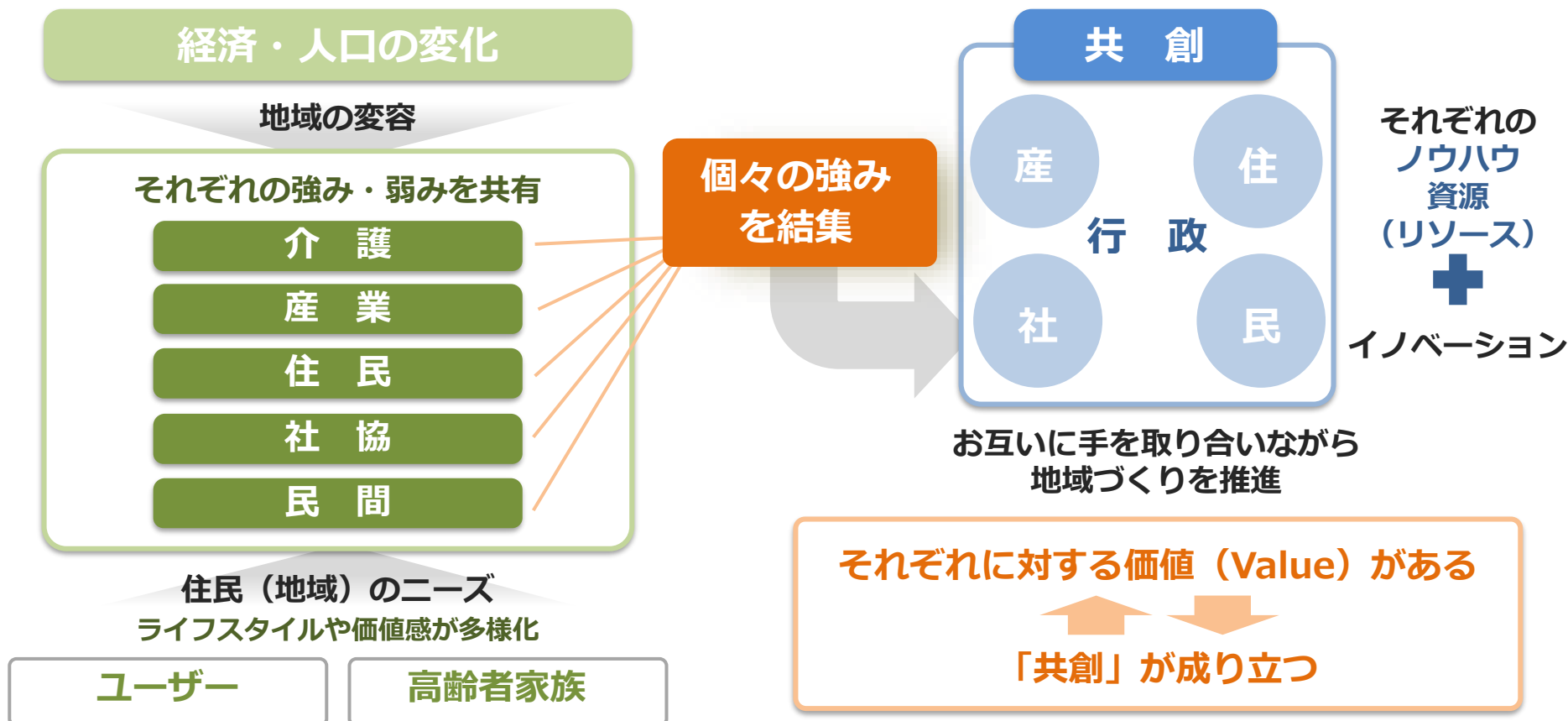
腑に落ちるコミュニケーション力の向上

■ 連携・協働・連動の意味を理解して活用できる

連携・協働・連動は、地域支援事業推進の重要事項

共創イノベーションによる地域づくり

- これからの社会においては、地域ごとにある関係機関・者が、それぞれの強みを活かし、相互に手を取り合いながら地域をつくっていくことが肝要（=共創イノベーション）
- さまざまな産業の多様な主体が、それぞれ強みを活かしながら活動してきて今日を迎えており、その強みを認め合うことが、地域づくりの第一歩となる



高齢者のニーズに合ったサービス等の創出・提供

- 住民をはじめ、地域の多様性を認め合い、強みを強化していくためには、地域のニーズ（≒ユーザーのニーズ）を正確に捉えることが重要
- 個人の適用性を高め、環境の応答性を良くするうえでは、法的な体制整備ではなく、ニーズに応じて体制を整える視点が肝要

これまでの
介護保険施策

今までは全国一律のサービス
(国で設定したサービス)

これからの
介護保険施策

ユーザー（高齢者等）の
ニーズ

◆ニーズはそれぞれ異なる
・・・これからはもっと多様化
⇒無駄なく、効果が出て
利用されるサービス等をつくる

高齢者のサービス利用に関するマインドセットを
転換させるプレゼンが必須！

高齢者のニーズをとらえるアイデア

最初の一步を踏み出すためのアイデアとして・・・

地域の高齢者に長く健康で暮らし続けてほしい

地域の高齢者の介護予防を進めるために住民主体の通いの場を新しく整備する

- ユーザーとしての高齢者にとって・・・
「長く健康でいたい」ことと「介護予防に取り組みたい」ことはイコールではない
- サプライヤーとしての高齢者にとって・・・
「地域住民とつながりをもつ」ことと「通いの場に参加する」ことはイコールではない

✓ 提案するソリューションと高齢者等のニーズとのズレが生じていないかを確認

「長く健康でいたい」 「地域住民とつながりをもつ」ことは言語化として正確か？

「長く健康でいたい」 ⇒ 「いつまでもやりたいことをやりたい」 ⇒ 「・・・」

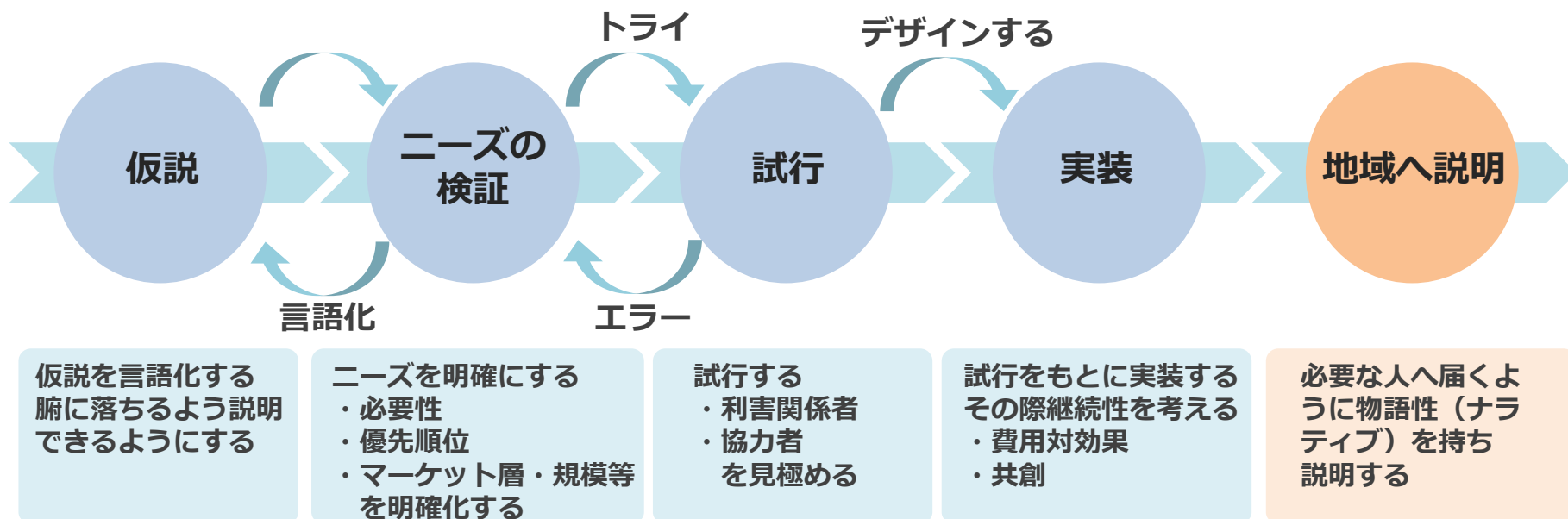
「地域住民とつながりをもつ」 ⇒ 「気の合う仲間と集まりたい」 ⇒ 「・・・」

新しく通いの場をつくらなくともどこかに集まる場所があるのではないか？

✓ 情報が不足していないかを確認

地域づくりに必要なプロジェクトマネジメント① ～全体像～

- 最も重要なことは、初期の「仮説」を具体的に「言語化」すること
- ニーズの検証に当たっては、対象者のより具体的な設定（ペルソナ）を意識する
⇒これにより、仮説が成り立つ市場（マーケット）が存在するかを確認する
- 「試行」により、利害関係者（ステークホルダー）や協働者（カウンターパート）を見極めていく
- 実際に取組を開始（実装）する際、行政の役割として「コストを考える視点」と地域に対する語り掛け（ナラティブアプローチ）を実施する必要がある



地域支援事業推進のポイント

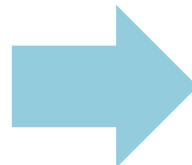
相手に合わせてプレゼンテーション
(相手によって響くポイントは違う。そのために 相手をよく知る)



肝はコミュニケーション

プロジェクトマネジメントを支える 腑に落ちるコミュニケーション

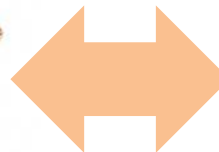
伝える



腑に落ちる



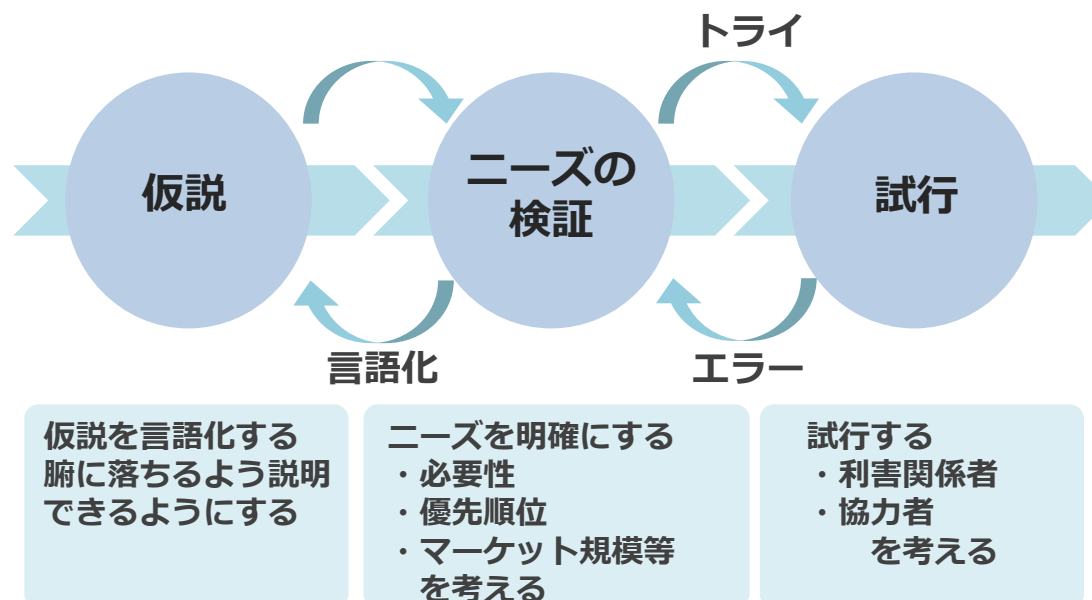
変わる



地域づくりに必要なプロジェクトマネジメント②

「仮説」の言語化と「検証」「試行」の繰り返しの重要性

- 最も重要なことは、初期の「仮説」を具体的に「言語化」すること
- そのうえで、即時に「実装」（正式なリリース）を行うのではなく、「ニーズの検証」及びスモールステップでの「試行」をトライ&エラーで繰り返す
- 必要に応じて「仮説」の再設計及び言語化に立ち戻る
- 十分に成果・効果が確認できたうえで、「実装」へと進む



地域支援事業推進の留意点

事業推進を
目的化しない

- ・ つどい場や支え合い活動を発見することや
 作ることを目的化しない
- ・ 連携・協働・連動することを目的化しない

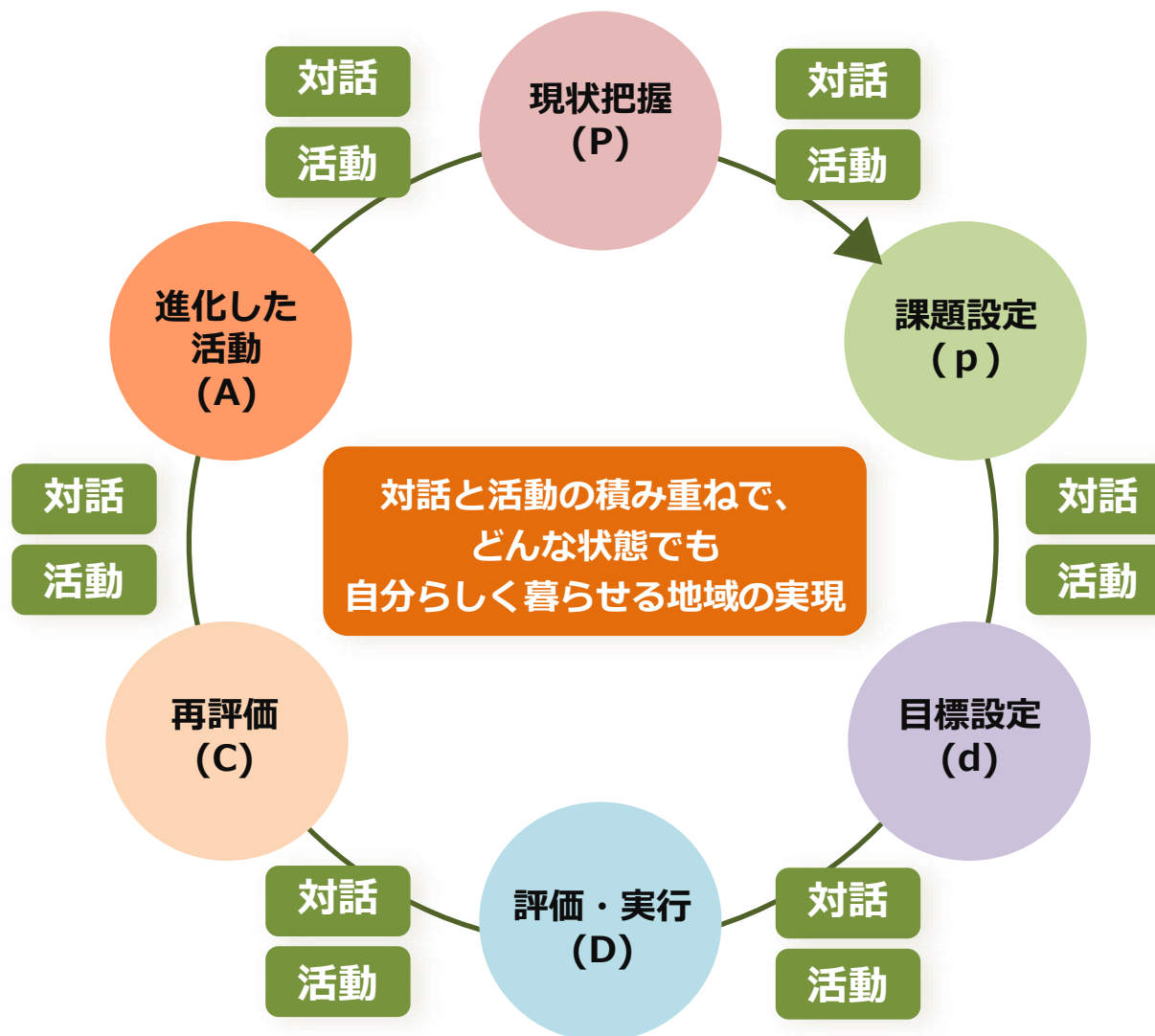
定性的データと
定量的データの
分析力を持つ

- ・ 視野を広く持つ
- ・ 住民・事業者・専門職・行政マンから学ぶ

腑に落ちる
コミュニケーション力を
磨く

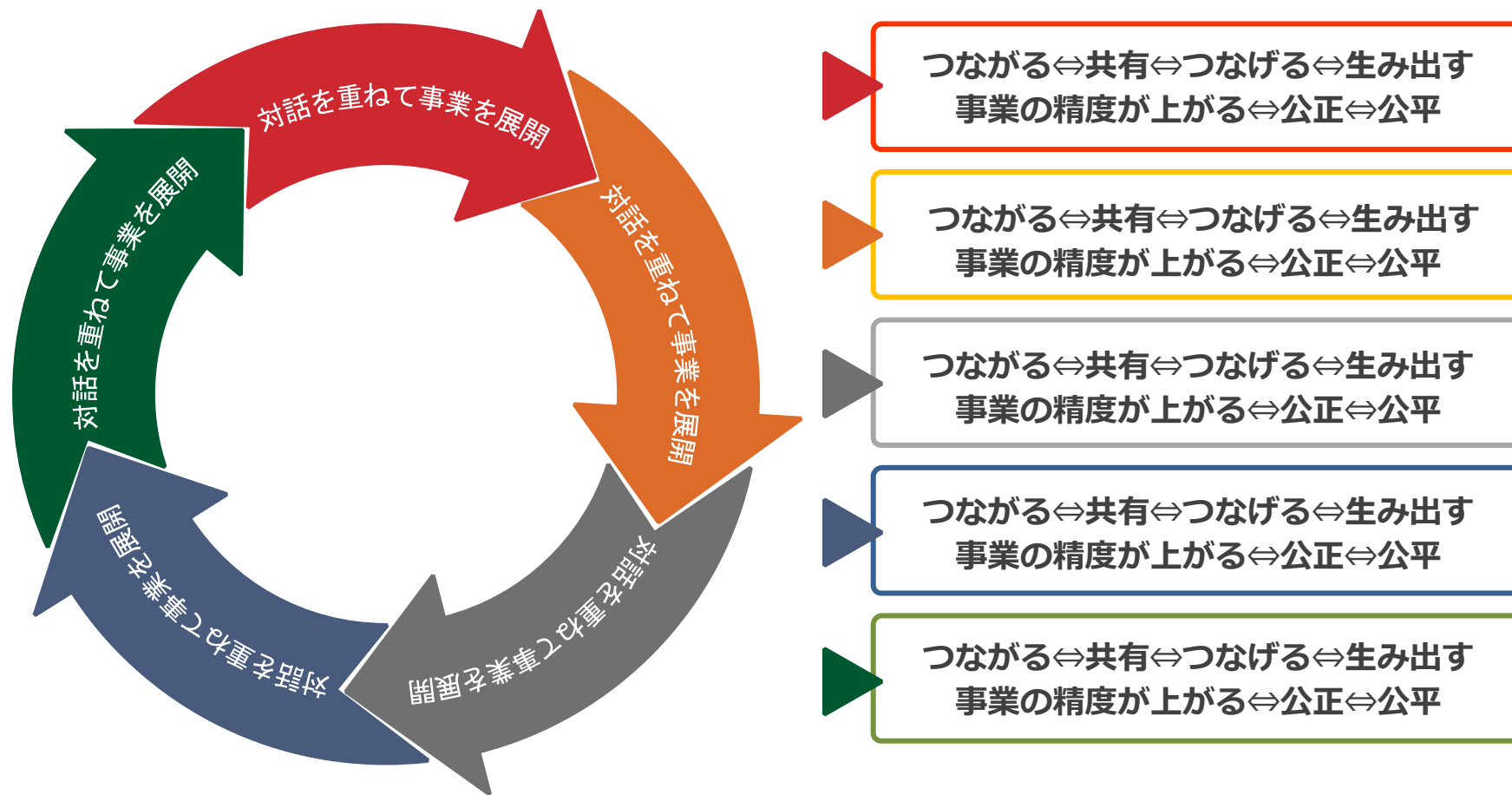
- ・ 聞いて分かる力が入り口
- ・ つながって共有の積み重ねが重要

保険者はPDCAサイクルで地域支援事業を推進



地域支援事業を実装するポイント

地域づくりは地域支援事業で加速化



振り返り・まとめ

- 1 地域や高齢者の強みに焦点を当てて、地域の変容を多面的に捉えることが重要。
- 2 地域にある資源は、全て地域が必要としているもの。共創の文化が定着することで地域が更に豊かになる。
- 3 仮説を立ててニーズをアセスメントして、スモールステップで試行を繰り返し積み重ねることが、事業の精度を上げる。
- 4 プロジェクトマネジメントが、公正公平な地域支援事業の展開につながる。